

奥日野の「たたら」と刀剣

全国的に刀剣がブームとなつています。各地で開催されている刀剣展には多くの人が来場されており、その人気のほどが分かります。

実は刀剣と日野郡には深い関わりがあります。ご存じのとおり、奥日野地域は、良質な砂鉄が採れ豊かな森林に恵まれていたことから、古くから「たたら製鉄」により品質の高い鉄を生産してきており、刀剣の製作に非常に適した品質の鋼(はがね)も生産していました。

国宝や重要文化財に指定されている刀剣には、平安時代の伯耆国の刀鍛冶が作ったとされる刀剣が何点も含まれており、奥日野で営まれていたたたらが背景にあるのではないかとはいわれています。

奥日野のたたら製鉄

奥日野の製鉄は、隣接する奥出雲で古墳時代後期(6世紀後半頃)から始まっていることから、同じ頃には行われていたと考えられています。その後、奥日野地域では製鉄が約1000年前まで営まれ、現在でも西伯耆・奥日野地域には約600もの「たたら製鉄」の遺構を確認することができます。たたら製鉄で作られた高品質の鋼(はがね)は「伯州鋼」「印賀鋼(いんがはがね)」といった名称で全国にその名を知られており、刀剣の材料としても使われました。



約100年以上前に作られた印賀鋼

最高品質だった奥日野産の鋼

奥日野のたたらで作られた鋼はリンや硫黄の含有量が少なく、現代金属精製技術でも再現が難しいとされている驚異的な高品質のものでした。この鋼は刀剣づくりにも非常に適したものです。

伯耆国を代表する刀剣には、平安時代の伯耆国の刀工「安綱」の手による国宝「名物童子切安綱」(東京国立博物館所蔵)や重要文化財「鬼切丸」(北野天満宮所蔵)があり、このほかにも「安綱」や安綱一門の刀工により多くの刀剣が作られています。奥日野産の高品質の鋼が、日本刀の最古級の名匠と知られる「安綱」とその一門を伯耆国から輩出することにつながったのではないのでしょうか。

また、奈良県の春日大社で開催された「最古の日本刀の世界 安綱・古伯耆展」(令和元年12月28日〜令和2年3月1日)の会場に、「印賀鋼」を展示したところ、会場を訪れた来場者から、約100年以上前から変わらない美しさに驚きの声が多数ありました。

伯耆安綱と大原鍛冶ゆかりの地

童子切を作刀したとされる名匠「安綱」については、いくつかの記録や記述が残されています。このうち「太平記」には「伯耆国会見郡に大原五郎太夫安綱というすぐれた鍛冶がいた」と記されており、実際に鳥取県中部には安綱やその一族(大原鍛冶)の伝承や痕跡が残される「大原」という地名が数カ所あります。

日野郡内では日南町の阿毘縁、日野町の上菅をはじめ「大原」の地名が安綱の伝承とともに残されています。



春日大社での古伯耆展

たたら情報 その1 「鉄穴流し」

たたら製鉄で原料として使われる砂鉄は「鉄穴流し(かんなながし)」という方法で集められていました。



日野川流域に流れ出た砂は、約2億5千万立方メートルとも試算されており、この土砂を、今の米子市の全域に均等に積み上げると約1.9mもの高さになる膨大な量です。

この鉄穴流しは、山肌を削って土砂を水路に流し、中に含まれる砂鉄を採取するという方法で行われます。この流した土砂に含まれる砂鉄の割合がわずか1〜2%だったことから、長い年月で地形に大きな影響を及ぼしました。

現日南町では鉄穴流しで下流に流れ出た土砂を堰止めて堆積させて「流し込み田」といわれる新田を作り、江戸時代の石高が約1000年の間に1.4倍となったといわれています。

また、大量の土砂が日野川下流域に流れることとなり、弓ヶ浜半島や米子市周辺の土地地形に大きく影響したといわれています。



鉄を持って山を削る人々 (鳥取県立図書館蔵)

たたら情報 その2 「たたら」のことが楽しく学べます!



たたら楽校根雨楽舎

大鉄山師、近藤家の出店として明治元年に建築された古民家に、優れた経営手腕を発揮した近藤家の歴史や、その文書などをパネル解説。文書から当時の「たたら」の実相を紐解くことができます。また、「都合山たたら資料館」として別棟があり、高殿の模型などを展示しています。

【開校】土曜日・日曜日10:00〜16:00
※冬季(12月〜3月)は休校
【場所】日野郡日野町根雨645(日野町公舎)



たたら楽校大宮楽舎

かつて「印賀鋼」として名声を極めたその主産地、日南町大宮地域に平成21年に開設したガイダンス施設。たたらの原理や鉄の歴史、地元で伝わる「八岐大蛇神話」などについてパネル解説。

【開校】月曜日〜金曜日 10:00〜16:00
【場所】日野郡日南町印賀1516

その他、「伯耆国たたら顕彰会」の公式サイト「たたらNavi」に詳しい奥日野たたらの情報が掲載されています。【公式サイト】<https://www.tatara-navi.com>

この秋の主な刀剣・たたら関連イベント

「古伯耆物の系譜〜伯耆における刀剣の歴史〜」展

この春、奈良の春日大社で開催された安綱・古伯耆展で展示されていた大神山神社(米子市)所有「太刀 無銘安綱」をはじめ、伯耆で制作された太刀や「短刀 宮入行平作」を含めた8振の刀剣と印賀鋼、刀剣制作工程用具一式などが展示されます。

【会場】日南町美術館(日南町霞)
【期間】令和2年9月25日(金)〜10月11日(日)
【主催】鳥取県



ミニたたら操業体験

火入れから砂鉄投入体験、鋸出しまでを行う「ミニたたら操業体験」を大山山麓と日野川流域の自慢の美味しい恵みが集まる「つながるマルシェ」会場で実施します。

【会場】つながるマルシェ会場(米子市角盤町 ひまわり駐車場)
【期間】令和2年10月17日(土)10時〜15時
【主催】鳥取県日野振興センター、伯耆国たたら顕彰会



「郷土のたたらと刀剣の歴史」展

鳥取県西部ゆかりの刀匠「森脇正孝」の刀剣と県西部から出土した古墳時代以降の刀剣・たたら関連品を中心とした刀剣展です。

【会場】米子市立山陰歴史館(米子市中町)
【期間】令和2年10月31日(土)〜11月29日(日)
毎週火曜日休館(※11/3開館)
【主催】刀剣・たたら関連事業実行委員会



※新型コロナウイルス感染症などの影響により、開催内容が変更となる場合があります。